

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年10月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670104969号
法人名	東開メディカル有限会社
事業所名	グループホーム灯夢想家
所在地	鹿児島市東開町3-21 (電話) 099-260-3030
自己評価作成日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関を関連機関に持ち、認知症に理解がある医師の協力が得られる事で、迅速で適切な指示や助言が得られる。重度化が進む中でも、その人の生活を主体に置いた支援とターミナルケアの取り組みを行っており、看取りの実績もある。関連機関の医療機関との連携のもと24時間体制で利用者の健康管理を行っている。

また、利用者が在宅でしていた事は出来るだけ行えるように、支援しており、ドライブや外出、外食などの機会をたくさん作っている。

職員の介護キャリア形成へのモチベーションも高く、多くの職員が施設在職中に資格を取得し、勤続している。

木造作りの事業所は明るく清潔で、広いホールと畳間があり、利用者のくつろげる家庭の延長線であるように造られている。医療施設を関連機関に持ち、定期受診や、専門医受診、また緊急時の対応にも適切な指示が得られ、24時間体制で利用者の健康管理を行い、家族は安心、安全が実感できる体制である。重度化の利用者には家族や職員、医療機関の連携のもと看取りの取り組みが行われ、実績もある。職員は明るく、一人ひとりの思いや意向を把握し常に振り返るケアを目指している。また施設長・管理者は職員の資格取得にも積極的であり、働く意欲や質の向上にも繋げている。地域住民との交流や外出の機会も多く、関連事業所の行事も取り入れ、利用者の五感が刺激される支援となっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域社会と密着した暖かい環境作りを行う事を、事業所理念の中に掲げている。また、日々のサービスの提供場面で迷う時は、理念を道標として振り返るようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえて理念はつくられ1、2階とも、職員や来訪者の目につく場所に掲げられている。常に真心サービスのケアを目指し、職員会議のなかで振り返り、理念がケアに活かされているか確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で町内会に参加したり、従業員が同じ町内会に加入し、活動している事もあり、地域からのボランティアを積極的に受け入れ、地域との日常的な交流を行っている。	職員が町内会に加入しているため夏祭りの参加やボランティアの受け入れなど、地域情報も盛んで、利用者も地域住民との挨拶や日常的な交流を楽しみにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	町内会の方が、認知症の家族の事で相談に見える事も多く、スタッフは積み上げてきた経験を活かし、相談の中で認知症の方への理解や支援の方法を具体的に話している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、中で、利用者状況やサービスの実際や、外部評価結果を報告し、意見を頂きながらサービスの向上に活かしている。	地域包括センター・民生委員・町内会長は高齢のため不参加であるが家族からは5～6名の参加があり、取り組み状況の報告、またヒヤリハットも報告され議事録のなかに意見やサービス向上に向けた取組みが伺われる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県及び市の担当者とは、事業所の取組の報告、介護保険諸手続き、福祉手続き等相談しながら関係作りを積極的に行い、協力関係を構築している。	市町村担当者に事業者の実情やケアサービスの現状を報告し、クレーム処理も相談している。また市町村からも情報の提供がある。現在は待機者も多いが空き情報も地域包括センターに報告し積極的に連携を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、高齢者の権利擁護が守られる様に取り組んでいる。また、スタッフ会議の中で禁止の対象となる具体的な行為について、ケアの中で行われていないかを点検している。	職員は身体拘束に関する禁止の対象となる行為を正しく理解しており玄関の施錠、また居室の窓からの夜間徘徊対策は窓用シャッターの開閉音でわかるように工夫している。ホールでの見守りは移動時に声かけを徹底し、大型施設への外出で気分転換など、身体拘束をしないケアに取り組んで	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、高齢者虐待防止関連法についての研修に参加し、虐待をしないケアのあり方をスタッフ全員で話しあい、虐待が行われない施設作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2階のエットに成年後見制度を利用されている方がおられる事もあり、朝のミーティング時に、権利擁護に関する勉強会を行ったり、弁護士さんとの連携の中で、協力し支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用者の状態変化により、契約解除に至る場合の説明は充分に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、事業所は家族から意見を頂きながら、話し合い、運営に反映させている。また、介護相談員の訪問を受け、利用者の意見を外部を通して、出された意見から日々のケアに活かしている。	家族や利用者からの意見や要望は運営推進会議や面会時に頂き、職員で話し合い具体的な取組みについて振り返る機会を設けている。生活介護記録のなかでも共有を図り家族や外部者からの意見も日々のケアに活かす工夫が見られる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間が円滑な関係であり、職員会議の中で、スタッフが活発な意見を出せる雰囲気がある。また、代表者及び管理者は職員の意見を個別に聞く機会を積極的に設けている。	職員会議の中で管理者は職員の意見や情報を取り入れ、また職員間も1・2階の交流を図りコミュニケーションも取れている。事業所の大事な決定事項も報告され職員の気づきやアイデアが活かされる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護の現場に頻繁に来て、スタッフの介護の状況や利用者状況を知り、スタッフの職能評価を行っている。資格取得者には、祝い金や資格手当や本人の意向や能力に応じた業務を行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と管理者は個人の能力に応じて、事業所内外の研修に参加させると共に、日々の体験を働きながら学べる機会にできる様に、現場のスーパーバイザー育成にも、力を入れている。その中で事業所に勤務してから6名のスタッフが介護福祉士の資格取得をしている。また20名中で9人が介護福祉士であり、キャリア形成のモチベーションが高い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年まで3年間行ってきた、複数連携事業の中で、事業所間の核となり、ネットワーク作りを行った。出来た同業者とのネットワークを通じて、相互訪問を行ったり、日々のケアの実践の相談などを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用に当たって、本人と事前面談を行い、置かれている状況や本人の思いや不安を受け止め、信頼関係を気づきながら、サービスを開始出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談に来られた際は、今までの経緯や家族の苦労をゆっくりと聞き、家族がサービスとして何を求めているかを理解し、事業所としてはどのような対応が出来るかを伝え、信頼関係を気づきながらサービス開始につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来られた際は、相談時の本人や家族の状況が、早急に支援を要する場合は事業所のみで抱え込むのではなく、地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなど、柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、年長者である利用者から伝統的な家庭料理の作り方や季節の行事、生活の知恵などについて教えられたり、逆にいたわってもらったり、励ましてもらうなどの場面も多く、一緒に過ごし、支えあう関係がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、利用者の状況を伝え、情報を共有する中で、家族が出来る役割を職員と話し合いながら、積極的に行って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてから、近所の方や宗教関係の方が面会に来られる事もあり、居室でお茶をのみながら、ゆっくりと話をされる事も多い。また、同じ町内会の方が尋ねてこられ、外出支援をして下さったり、宗教関係の方が宗教施設と一緒に参拝に行ってお下さるなどの関係がある。職員は、ゆっくりと過ごせるように、支援している。	知人や友人の訪問や趣味を活かす支援もあり、行きつけの美容室、墓参り、関連事業所の行事参加など、利用者がこれまで過してきたなじみの関係が続けられるように支援している。近場の高層ビルから眺めて食べるバイキングは利用者の楽しみの一環となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、スタッフ間で情報の共有を行い、ホールでの座る位置の調整を行ったり、お茶や食事の際は一緒に過ごし、多くの会話をもち、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方は転院先にお見舞いにいたり、家族へ状況の確認を行い、随時介護相談を行っている。また、退去者の紹介で、入居相談に来られる方も多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のかかわりの中で、個人の思いや暮らし方の希望について感心を示し、把握し情報の共有を行っている。また、把握が困難な方からは、家族や関係者からの情報や本人の表情や日々の行動や生活歴から、本人はどうかとの視点で、気持ちを推し量れるように努めている。	入居時に利用者や家族から、一人ひとりの暮らし方の意向を聞き、生活介護録の中に記載されている。職員は共有を図り、また日々の生活の中で汲み取る努力をし、業務日誌のなかで確認している。困難な利用者は筆談や表情で把握し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に生活歴やライフスタイル、個性や価値観を把握している。また、本人から伺えない場合は、了解をもらいながら、家族や知人などから、過去の具体的な情報を伝えてもらい、本人の全体像を知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の生活の中で、小さな動作や行動から、本人の出来る力、わかる力を暮らしの中で発見し、その人の全体像を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく生活出来るように、要望を聞き、家族やスタッフの気付きや意見や要望を聞きながら、アセスメント及びモニタリングをおこない、個別的な介護計画の作成を行っている。	一人ひとりの課題とケアの在りかたを、利用者、家族、職員、また主治医の参加のもと、気づきや意見、アイディアを出し合い、期間に捉われない現状に即した介護計画が作成されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活介護記録を用意し、食事や水分量、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、職員の気づきやエピソード等を記録している。生活介護記録は情報の共有として職員全員が目を通して通している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が高齢であり、医療ニーズが高い事もあり、事業所で医療連携体制をとっており、東開内科クリニックや調剤薬局との医療連携にて、健康支援や看取り介護を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域の民生委員に入ってもらったり、町内会の方にボランティアに来て頂くなど意見交換や交流の場を設けている。また、消防署には、年に2回の消防訓練実施の際に立会いや指導をもらい、協働で施設の防災に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に受診の状況とかかりつけ医の希望を確認し、希望があれば継続して、かかりつけ医の受診が出来るように支援している。受診は家族にお願いしているが、都合が悪い時は、施設にて通院介助している。	家族の希望で母体病院がかかりつけ医であるが、入居前からのかかりつけ医受診の利用者もいる。認知症専門医や歯科、眼科受診の支援もされており調剤薬局の指導にて薬の管理もでき、適切な医療が受けられる体制である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中で気づいた状態変化を、ホームの看護師に伝え相談し、看護師は受診すべきか、様子観察でよいのかを判断している。隣接してクリニックがあり、ほとんどの利用者が在宅訪問診療を契約しており、気軽に相談できる関係がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人への支援方法に関する介護サマリーを医療機関に提供し、頻繁に見舞うようにしている。また、家族や医療機関と連携をとりながら、対応可能ならなるべく早期に退院出来るようにアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応に関して、職員の力量や他利用者の状況やチームの連携などの諸条件をふまえつつ、家族、職員の意向を確認しながら、かかりつけ医と連携を取り、随時意思を確認しながら、取り組んでいる。	重度化した場合の丁寧な説明を、管理者や職員、また医療関係者と連携を図りながら、その都度行い方針の統一を図っている。看取りに関しては実績もあり事業所で出来ることを全職員で共有し、家族と本人の安心と納得が得られるように支援している。	重度化に関しての連携が取られ実績もある事業所である。家族との話し合いも十分なされているが、双方の安心のため明文化が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我や骨折、誤嚥、意識不明などの急変時の対処法については、病院や訪問看護スタッフなどの協力でその都度、勉強会を実施し、体験・体得・習得するようにしている。また、夜間等人手が少ない時の応急手当から、その後の連絡、対応方法等についても想定し、それらを身に付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を経て、利用者と共に避難訓練避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。また、防災のマニュアルを作成し、あらゆる災害を想定し、いざという時にあわてず、確実な避難誘導が出来るように備えている。	運営推進会議の中でも協力体制について話し合い、昼夜を通じて消火訓練、避難経路の確認と誘導が併設された母体病院や近隣住民の協力のもと行われている。防災マニュアルも作成され、非常用食料や備品も準備されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入職時に個人情報に関する説明を受け、誓約書の中で、一人ひとりのプライバシーの保護の徹底や個人情報の漏洩防止について、守る責任を教育されている。また、個人の尊厳に関しても、日々の関わりの中で、リーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	職員は誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことの徹底がなされ、排泄も人前で恥ずかしくなるような介護は避け、さり気ない誘導を心がけている。個人情報も目立たない所に保管され、一人ひとりの人格の尊重がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉では充分に意思表示出来ない場合であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の希望や好みを把握し自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースに合わせて、その日その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個性のある暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	生活習慣や好みに合わせて、本人主体で身だしなみが整えられるように、職員はお膳立てしたり、不十分な所や乱れはさりげなく直している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは1週間づつ、利用者の食べたい物や旬の物を取り入れて作る。時には出前で寿司を注文したり、弁当を持って花見に行くなどして、食の楽しさを提供している。また、昔ながらの食材の処理の仕方の思い出をききながら、一緒に行っている。	買い物が好きな利用者や出かけたり、差し入れの食材の下ごしらえや、配善の手伝いはエプロンをかける利用者もいる。好みに合わせたメニューは食欲をそそる配慮であり、事業所の行事食も楽しみの一環となっている。食前の嚥下体操も笑いを誘う楽しい食事風景である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の生活介護記録に一人ひとりの食事量を記載し、情報の共有を図ると共に、在宅訪問診療の際に採血結果に基づき食事カロリーや水分の指示など細かく、指導を受け、必要に応じて、栄養士の指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは口腔内の清潔の意義を理解し、一人一人の力に応じて、歯磨きの声掛けや、就寝前の義歯の消毒などの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、行きたい時にトイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。また、排泄の失敗があった時はさりげなく、手伝い、周囲に気付かれないように支援している。	生活介護記録のなかで一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の自立支援に心がけている。オムツから布パンツになった利用者もあり、夜間排泄は足元センサーで確認でき、速やかに居室に行くなど、排泄の支援をしている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採りいれたり、散歩や、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて自然排便を促す工夫を個別にしている。また、個別の記録に排便の状態を記載し、便秘者に対しては、下剤や浣腸を個々に応じて使用している。また、在宅訪問診療時に、使用について状態を報告しアドバイスを受ける事で、出来るだけ薬に頼らないで、自然排便があるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者のその日の体調や気分に応じて、入浴したい日に入って頂いている。また、入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。	一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しんで頂き、ためらう利用者は強制はせず、清拭やタイミングをみでの声かけ、入浴剤で気分を変えるなど気持ちよく入浴できる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に応じて休息や睡眠がとれるよう支援し、日中の活動を活性化させることで生活のリズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携する薬剤師の指導の下、服薬の注意事項や服薬方法について全職員が把握している。また薬剤情報のファイルを作成し、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味(編み物や計算、しりとりなど)をそれぞれが楽しんだり、日々の言動の中で本人のニーズをくみ取り、役割意識の向上のため自主性を尊重した支援に努めるとともに、利用者の経験や知恵を発揮する場面作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じるために月に1、2回はドライブをしたり、本人の思いをくみ取った外出ができるよう勤務の調整を行ったり、家族に協力してもらいなどして支援している。	車椅子対応の利用者も戸外に出かける機会をつくり、利用者の希望で遠出のドライブになることもある。天気の良い日の散歩や大型ショッピングモールでの買い物、家族と墓参りの後の外食など、これまでの生活の継続として捉えた外出支援となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時にその人の能力に応じてお金を所持したり、買い物に行くことのできない時には、希望を尋ねて代理で買い物をを行うことで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	友人からの電話連絡の引き継ぎや、本人の希望に即して電話や手紙が自由にやりとりができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が純木造建築で木肌のぬくもりと木の香りに包まれた心地よい空間になっている。また、季節感や生活感(十五夜やお盆などの行事)を大事にして居心地の良い空間作りに努めている。	明るく広いホールに利用者はゆったりとくつろぎ、食前、食後に、すぐに使える手洗い洗面もおしゃれに配置されている。洗濯物の手伝いは畳の間を利用し、廊下にも広い洗面と季節の花が飾られ、清潔で気持ちよく暮らせる共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やテレビ前に椅子を置いて、自由に過ごせるような環境を作り、気のあった人と談笑しながらくつろいだり、独りになれたりする空間作りをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた家具を持ち込み、今までの暮らしが継続されるような雰囲気作りに努めている。また、希望に応じてテレビや冷蔵庫を設置している。	居室は明るく、家族と相談しながら利用者が使い慣れた家具やものが配置されている。自立を目指し良く動く利用者の部屋は本人の動線に合わせ危険性を考慮した工夫もされ、居心地よく過せる配慮がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、バリアフリーに配慮されている。また、利用者の状況に応じて居室の滑り止めマットやベッドサイドの介助バー、センサーマットの使用などを行い、安全確保と自立への配慮をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない